

WEEKLY SIGNAL

2019年8月23日(金) 1488号

上田八木短資株式会社

来週の市場とレート予想

| | 8/26(月) | 8/27(火) | 8/28(水) | 8/29(木) | 8/30(金) |
|--------|---|-----------------------------|-------------------------------------|---|--|
| 無担保O/N | | | △0.086% ~ 0.001% | | |
| 銀行券 | + 600 | トシ | トシ | トシ | △ 800 |
| 財政他 | + 3,500 | + 1,000 | △ 5,000 | + 1,000 | + 2,000 |
| 資金需給 | + 4,100 | + 1,000 | △ 5,000 | + 1,000 | + 1,200 |
| 主要要因 | 国庫短期証券発行・償還(3M) | | | | |
| オペ期日 | CP等買入 △ 500 共通担保資金供給 △ 600 | | | | |
| オペスタート | ETF買入 + 700 社債等買入 + 1,300 共通担保資金供給 + 900 国債買入 + 12,600 | | | | |
| (日本) | | | | 日銀鈴木審議委員、講演・記者会見(熊本市) | 失業率(7月) 有効求人倍率(7月) 東京都CPI(前年比)(8月) 鉱工業生産(前月比・前年比、7月) 小売売上高(前月比・前年比、7月) |
| (海外) | G7首脳会議(広島アリアツ、最終日) 英 中銀総裁、講演(フランクフルト) | 米 消費者信頼感指数(8月) 独 GDP(2Q) | 米 リッチモンド連銀総裁、講演 ユーロ圏 マネーサプライ(7月) | 米 サンフランシスコ連銀総裁、講演(ニュージャーランド) 米 GDP(2Q、改定値) 米 新規失業保険申請件数(8月24日終了週) ユーロ圏 景況感指数(8月) | 米 ミシガン大学消費者マインド'指数(8月) ユーロ圏 失業率(7月) ユーロ圏 CPI(8月) |

<インターバンク市場>

| 無担保ターム物 | 予想レンジ |
|---------|----------------|
| SPOT 1M | △0.040 ~ 0.020 |
| SPOT 2M | △0.020 ~ 0.020 |
| SPOT 3M | △0.020 ~ 0.030 |
| SPOT 6M | △0.010 ~ 0.100 |

<インターバンク>

日銀当座預金残高は、週初403兆2,100億円から始まった。その後増加要因として20日の国債買入オペ、22日の国庫短期証券買入オペ等があったが、20日・21日の国債発行による減少の影響が大きく、401兆7,700億円で越週した。無担保コールON物は、積み期の前半ということもあり週を通して落ち着いた地合いであった。同加重平均金利は、19日～22日の間、△0.061%～△0.058%の狭いレンジで推移した。週末23日は地銀・証券業態を中心にやや調達意欲が強まり、同金利は△0.052%まで上昇した。ターム物は1W～2W物を中心に、主に△0.040%～△0.030%の水準で出合が見られた。総務省が23日に公表した7月の全国消費者物価指数(CPI、2015年=100)は、生鮮食品を除く総合指数が101.5と前年同月比0.6%上昇した。伸び率は前月と同じで、2017年7月の0.5%上昇以来直近2年で最も低い伸び率となった。来週の主な予定は、国内では失業率(7月)・有効求人倍率(7月)の公表(30日)や、東京都CPI(7月)の公表(30日)などがあり、海外では米国GDP(4月～6月改定値)の公表(29日)や、中国製造業PMI(8月)・非製造業PMI(8月)の公表(31日)などがある。

<オープン市場>

| | |
|------------|----------------|
| CP3M(a-1+) | △0.005 ~ 0.000 |
| TDB 3M | △0.180 ~ △0.10 |
| 現先(on/1w) | △0.050 ~ 0.000 |

<CP>

今週の入札発行総額は約5,200億円で、週間償還額(約6,700億円)に対し償還超となった。夏季休暇明け、事業法人の発行再開で活況を予想したが、大型発行案件も少なく落ち着いたマーケットとなった。先週末の市場残高(21兆7,879億円)に対し、22日時点では若干増加し21兆8,700億円程度となった模様。発行レートは、引き続きマイナスから0%近辺での横ばい圏内の出合いであった。来週の償還総額(8/26～8/30)は、月末日の大型償還(1兆1,000億円)をふくめ1兆7,000億円程度となっている。月末週で案件多く活況を予想するが、月末の大量償還に対しどの程度ロールとなるか注目される。月末残高は、21兆8,000億円前後と思われる。27日に、CP等買入れオペが2,500億円程度オフアされる予定。発行レートは運用ニーズ強く、引き続きマイナスから0%近辺の出合いとなろう。

<TDB>

世界的な債券需要の高まりもあって、今週の国庫短期証券市場はやや強含む動きが見られた。19日の1Y852回債の入札結果は、最高落札利回り△0.2228%(前回債△0.1931%)、平均落札利回り△0.2367%(同△0.1971%)となった。入札後同債は△0.25%～△0.255%で取引が見られた。23日の3M853回債の入札結果は、最高落札利回り△0.1383%(前回債△0.1162%)、平均落札利回り△0.1463%(同△0.1222%)となり、入札後は△0.145%～△0.155%で取引された。セカンダリーではそのほか3M物が△0.14%～△0.15%で取引され、1Y物は△0.25%～△0.26%で出合いが見られた。来週は30日に3M物の入札が予定されている。

<レポ>

足許GC取引は週初△0.08%～△0.09%での取引が中心。以降週失にかけてレートは小幅上昇し、一時△0.07%台での取引も見られた。短期3Mの発行日である27日受け渡しでは、前場△0.08%～△0.085%が出合い、後場には△0.075%～△0.08%まで上昇し越週した。SC取引では2年402・403回債のbidが多く、週を通して△0.1%台前半で多く取引された。他2年400・401回債、5年137・138・139・140回債、10年338・339・340・341・342・343・344・345・346・347・348・349・350・351・352・353・354・355回債、20年164・165・166・167・168・169回債、30年59・62・63回債、40年9・10・11・12回債などに引合いが多く見られた。

本資料は投資環境等に関する情報提供を目的として作成したものです。本資料は投資勧誘を目的とするものではありません。有価証券等の取引には、リスクが伴います。投資についての最終決定は、投資家ご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。当社は、いかなる投資の妥当性についても保証するものではありません。記載された意見や予測等は作成時点のものであり、正確性、完全性を保証するものではなく、今後予告なく変更されることがあります。